

日時 2016. 11. 17 (金) 晴
メンバー 小島 進 (単独)
山域 山梨・七面山 (1983m・南の最高峰 1989m) = 敬慎院 (約 1700m) まで
標高差 羽衣約 500m～敬慎院約 1700m=約 1200m
コース 裾野・呼子発 3:52—本栖湖 4:55—国道 52 号横断 5:34—早川七面山入口 5:48—
羽衣駐車場 6:00～25—肝心坊 7:06—中適坊 7:28—晴雲坊 8:0—敬慎院 8:40～
9:34—晴雲坊 9:57 中適坊 10:22—肝心坊 10:37—羽衣駐車場 11:06～11:30—
早川七面山入口 11:37—国道 52 号横断 11:52—本栖湖 12:24—裾野・呼子 13:24

“七面山は十六年前の正月に登ったことがある。山頂手前に身延山久遠寺の塔頭寺院、敬慎院が鎮座している。表参道は早川沿いの角瀬から春木川を遡った羽衣が発発点。此处から敬慎院まで標高差 1 2 0 0 m、直線距離 2 2 0 0 m、歩行距離 4 2 0 0 m、平均斜度 1 6° の超難物。しかし参道は入念に整備され、とても歩き易く、面白いように高度の稼げるルートだった。トレーニングに最適との記憶がある。ずーと気に成っていたが、思い切って行くことにした。午前四時、立待月の灯りに助けられ出発。須山、十里木、富士宮と、快調にクルマを進める。芝川を越えて 5 2 号線に乗ることが最短ルートと思うが、桜峠が狭く寂しく不安なので、遠回りだが本栖湖から下部温泉に降る。羽衣にはまだ暗い六時に到着。少し時間を潰し明るくなるのを待って登山開始。

参道は石畳との記憶だったが、長さ 4 2 0 0 m の石畳など在于はるはずもない。道は幅数 m で平らに均し、薄灰色の火成岩礫が表面を覆っている。浮石や凸凹も無く、木製の階段は高さが 2・3 0 c m と低めに設置され、足腰への負担が少ない心優しい道だ。参道脇には距離を示す丁目が刻印された石灯籠、休憩用のベンチや雨風を防ぐ屋根があり心強い。

今回は体力作りが目的なので、意識的に飛ばす。荷物少な目、ストックも一本持参。ヒノキの巨木が林立する、初冬のキーンとした寒気の中、発汗を考え薄着で歩き出す。それにしても立ち木が太く高く神々しい。直径 1 m 以上、高さ 2～3 0 m は有りそうなヒノキとスギ。此处は日蓮上人ゆかりの霊山、八百年近い歴史を感じさせる。

最近老いを実感している。登山でもランニングでも入りが辛くエンジンの掛かりが悪い。神力坊、肝心坊を越えて小一時間歩いたところで小休止。水と果物を補給すると多少身体が慣れてきた。歩き易い参道を黙々と登る。高度計付腕時計を見ると、二分で 2 0 m のペースで高度を稼いでいる。一時間で 6 0 0 m、悪くはない。

周辺の植生は高度と共に顔色を変える。人工植林のヒノキは姿を隠し、天然スギとナラ、カシ、朴ノ木、カエデと言った落葉樹が主役となる。木の葉が、参道に茶色の厚い絨毯を敷き、木々の隙間から鮮やかな色彩で目を楽しませる。早朝で登山者は少ない。往路で出会ったのは、敬慎院の参籠客と思われる下山者数名、登山者一名。

歩き易い心尽くしの参道が、前触れも無く幅を広げ、左に進路を変える。眼前には無数のひなびた石灯籠を引き連れた和光門の威容。敬慎院まで後僅かだ。木製の階段が参道から静かに身を引く。参道は石碑とヒノキ並木に結界された霊域に姿を変える。鐘楼を左に曲がり、急坂を登り切ると、隨身門が言葉少なに疲れた老人を迎える。

門前の広場は大きく真東に開けている。此処は正面に富士山、眼下に富士川と身延の山々、右翼に愛鷹連峰、左翼に秩父を望む高名なビューポイント。隨身門を潜り数十m降ると目的の敬慎院。これらは計算され尽くした配置と見た。隨身門前では春分秋分の夜明けに富士山頂に昇る朝日（ダイヤモンド富士）拝むことが出来る。そして、生まれたばかりの日光は隨身門を潜り、敬慎院本殿を直接照らす。その一瞬の奇跡の為に先人はこの寺院を建立したのだろう。

本殿を拝み隨身門前の広場に戻って大休憩。空は晴れだが、霊峰は初冬とは思えない霞と霧に覆われ、泣き出しそう。それに風も出て手先がかじかむ。登山口の気温は確か5℃程度。そこから1200mあがっているのに、気温は氷点下だ。持参のガスコンロとコッヘルを出し、味噌ラーメンを煮るが、標高1710mの寒気は熱々の御馳走をも凌駕する。最終兵器、般若湯を忘れた事が悔やまれる。眺望の回復を待ったが寒さに耐え切れず三十分で下山開始。七面山山頂は敬慎院から小一時間の距離だが、以前登っている事と、木々に覆われ展望が皆無な為パス。

帰路は心に余裕が出来たのか二三気付いた。参道は実によく管理されている。参詣客は多い筈だが道の崩れは皆無。所々路面に斜めの溝が掘ってある。雨水の排水用だろう。良く考えている。そして道の落ち葉がやけに少ない。長さ数キロの参道を掃いているようだ。

三十分ほど降ると、下から太鼓の音にお題目を唱える声が聞こえる。信者の団体さんだ。一様に白装束に金剛杖。通常登山で行合うと『おはようございます』とか『こんにちは』と挨拶を交わすが、此処は『ご苦労様です』と交わすのが礼儀らしい。団体さんが下山する私を見付けて、左に寄り道を譲ってくれる。恐縮して『ありがとうございます』、『ご苦労様です』と声を掛けながら、早足で脇を駆けるが、何処まで下っても団体さんの人並みが途切れない。相手を待たせているので急ぐが、息が切れ、額からは汗がほとぼしる。結局、標高差で100m近く降ってやっと団体さんをやり過ごした。聞くと総勢四百人バス十台分の大行列。平日にもかかわらず、この大人数が二グループ登って来た。敬慎院の宿坊は千人収容との事だが、さもありなん。

羽衣には11時過ぎに下山。標高差1200mで、登り2時間15分。降り1時間32分。まあまあ。汗まみれのシャツを着替えて周囲を散策。朝は暗くて解らなかったが、木々の葉が四色に彩られ素晴らしい。山々が暖かなセーターを纏っている。帰路は平日のせいかクルマ通りが閑散。二時間係らず家に帰着。

深山幽谷の山歩き。巨木達が日差しと風雨を遮り、夏は清爽、冬は暖かなルートと言える。積雪時も軽アイゼンとストックで対応できそう。四季折々に楽しめそうな場所だ。



登山口の案内板



深山幽谷の参道



参道の木階段



隨身門全景



隨身門の眺望



羽衣橋の紅葉

参考記録

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/593.pdf